

現地レポート／ 石橋 嘉一（文化科学研究科 メディア社会文化専攻）

派遣先：イギリス

派遣先機関名：Institute of Education, University of London（ロンドン大学教育学研究所）

派遣期間：2007年7月19日～2007年9月5日

2007年8月19日 報告分

授業・研究の進捗状況

派遣一ヶ月後の中期報告として、研究の進捗状況を以下に報告する。海外派遣初期と中期における主な活動は、研究の基盤構築、いわば研究環境の整備、先行研究収集、人脈の構築に力を入れてきた。具体的な活動としては、1. 派遣受け入れ先である Institute of Education, University of London 主催の国際会議 “Learning Together: Reshaping Higher Education in a Global Age” に参加し、自分の研究分野に関連する情報収集と現地での人脈（同分野研究者との研究協力関係構築）に従事した、2. ロンドン大学教育学研究所付属図書館において、Reference Membership として、同施設の使用許可を得て、自分の博士論文に関連する先行研究調査を重点的に行い、同時に同研究所の言語教育専攻の博士課程学生と議論を重ねた。

生活関連状況

ロンドン大での研究生活においては、主に以下の2点を報告する。1. 住環境：大学から離れた場所の寮（場所：London Paddington、施設名：Lillian Penson Hall, University of London）に滞在となってしまうが、反対に落ち着いた住環境で生活でき、海外でよく聞かれる騒音問題等とは無縁の研究生活を送ることができている。2. 食生活：寮の地下に学生食堂があり、外食するよりは安価で食事ができるため助かっている。その他、生活に関する補足事項は、気候と物価である。気候に関しては、異常気象で毎日寒い日が続いている。半そでを中心に夏服を用意してきてしまったので、健康管理に気をつけている。物価に関しては、日本の2-3倍高いので、かなりの節約・儉約生活を強いられている。例えば、スパゲティとミネラル・ウォーターを注文しただけで、2600円程度の食費がかかるので、自炊しサンドイッチと水筒の飲み物を持ち歩くなどの工夫をしないと生活はできない。

その他報告すべき事項

知らせておきたいこと、確認したいことは今のところ特になく、順調な研究生活を送れている。困っていることは、やはり物価高であり、移動交通費、物品購入、食費等、質の伴わない出費に頭を悩めている。これは私に限ったことではなく、ロンドンに留学中の日本人学生全てが抱える問題なので、先輩方にアドバイスを聞きながら、対処していきたいと思っている。